清國視察說 全

92
104
Ⓜ

92-104

世界大勢研究會
千九百七十七年
今子爵氏ノ本國政府ノ命ニ依リ

大勢の達觀は活眼の士に非されは素より之を能くせる清國の事は今日世界の最大問題なり之か解決に熱血を注く者世界の最大問題なり之か解決に熱血を注く者らす而も得て其正鵠を射る者に至ては即少し

今の獨國外相フエルヂナンド、フオン、リヒトホー

發表せり然れ共其は十數名の專門家を率ゐ數箇月の踏査を費したるの結果のみ又彼のペレスフォード卿は曩に倫敦商業會議所の囑托に依て渡清し當時有益なる支那開放論を唱破せり然れ共是亦リヒトホーフエン氏の報告書に負ふ所蓋し尠なからさるか如し余か常に敬愛する貴族院議員藤田四郎君客歲十月清國各地に漫遊し歸來其意見をは余か主管する中外商業新報紙上に發表せり是れ氏が短騎十餘有日を費したる視察の結果のみ素より一の報告書を參照せず又一の專門家を率たるに非す而も政治經濟、社會其他各種の方面より老大帝國の眞相を穿て殆んこ餘蘊ある

内交部

なし清國問題の盛なる今日世を益する蓋し尠しとせず乃ち綴て一篇となし敢て同好の士に頒つと云爾

明治卅五年一月

野崎廣太謹識

目次

一 緒言……一丁
二 清國其物に對する觀察……一丁
三 清國の鐵道問題……四丁
四 遼東に於ける露國の經營……七丁
五 貿易港と世界の交通……十一丁
六 獨逸の膠州灣に於ける經營……十五丁
七 泰皇嶋に於ける英國の經營……十七丁
八 清國の貿易並に起業……廿一丁
九 清國に對する日本航海業……廿五丁
十 清國各種產業の概要……廿九丁
十一 清國の鐵山及製鐵所……卅三丁
十二 專管居留地問題……卅八丁
十三 償金拂込問題……四十丁
十四 日清銀行設立問題……四十一丁
十五 醜業婦と貿易の關係……四十三丁
十六 清國稅關長採用問題……四十五丁
十七 支那人待遇問題……四十七丁
十八 結論……四十八丁

清國視察談

前農商務總務長官
貴族院議員　藤田四郎君談話

一　緒言

我輩が四月を費したのは此十月(三十四年)の四日であるから北支那から揚子江を漯口迄溯つて其間地方等も歩いて長崎に歸る迄に唯た三十二日間を費した丈で其の内十六七日は大洋若くは揚子江の上に居つたと云ふ次第であるから支那の風俗人情と併に政治商業等に就て詳密なる調査觀察を遂げたる譯でなければ從て其の精しい話をすることは出來ぬ、私の旅行の目的は單に漫遊と云ふに過ぎない、唯歸つて來てどう云ふ利益を得たかと云ふに支那のことに付て人の話を聽いて僅かに曲つたなりに判斷をする丈の智識を得たと云ふに過ぎない、夫故立派な話をする丈の材料もなければ統計もなく又十分な觀察も出來て居らぬのである、併し私の同行者には相當に實業上の經驗を持つて居つた人もあり政治上にも幾分の經歷のある人も居ると云ふ譯で船の上なり滊車の中で互に色々樣々に話したり議論したりして自然に各々多少の智識を得た積りである夫で先づ私が見て來たことに付て眼を通ふて御話しを致すことにしませう

二　清國其物に對する觀察

抑支那の國を保全すると云ふとは色々の意味を持つて居るが要するに支那國其物として所謂保全は六ケ敷いことを感じた、支那人種と云ふものは私のドグマチックの斷言ではあるが歐羅巴に於ける猶太人種の如きものであらうと思ふ、彼れ支那人は數千年來屢々外國人種に國を奪はれても或る一二の特別なる人物を除くの外は其刺激に對して、怨みを持たないで自分自らの安全を計られれば夫で宜いと云ふことを主として居る人種である、猶太人種は今日其固有の領土は一も持たぬけれども尚其五百萬の人口は歐羅巴初め各地に散在して中々ふらい勢ひである、うこで支那人種も極く極端に云へばうう云ふ人種になるであらうと考へられる併しながら猶太人種と違ふのは彼は五百萬の人間であるが支那人は四億と云ふ人間で一大州を合したものより尚餘計の人口を持つて居るのであるから誰が其國を占領した所で支那人種と云ふものは實質に於て勢力を維持し益々之を發達して往くだらうと思ふ、即例へば滿州朝廷が出來ても支那人は依然と存したるが如く誰れが征服しても略取しても支那人は支那人で居ると云ふ傾きがありはせぬかと思ふ、うこで支那人種の智識の工合を見るに北と南は餘程違つては居るが兎に角普通教育は日本の昔の寺子屋と云ふものすら十分にないのである、支那を改良して支那人種と云ふことでなく支那國と云ふものを大に發達させやうと思ふ

には普通教育に最も注意しなければならぬと思ふが殆んと數個の聯邦より成れるが如き感あるの大國に於て今日の狀態であつたならば平和的改革手段に依ら幾多の上論を固して改革を爲すとも此の二千年三十年に到底其國の國是と爲すべき方針を立てゝ支那國其ものとして世界の「パン、ナショナリズム」の競爭場裡に立つと云ふことは六ケ敷と思ふ併しながら支那人種は猶太人種の如く能く働き能く儉約をする人種で其の數は四億もあると云ふのであるから何れの國となり何れの民となるも決して衰へる人種ではなく優に世界に於て大なる勢力を持つであらうと思ふ、支那人種は今日あちら、こちらに出て即ち南北亞米利加、布哇、濠州其の他に出て多い所には數十萬人も居ると云ふ有樣で中には數百萬の金を溜めて其處で立派な生活をやつて居る、又た現に香港上海の如き有樣を見るに西洋人の居留地に造る建物の入札があると落札するものは誰れかと云ふと多く宜いものは支那人である、支那人は彼の財産の安全を保つために居留地に住むのは勿論も得策であると云ふことを知つて居るので之れに依つて己の財産を安固にしやうとするのである、故に香港、上海、天津等で宜いものは支那人の所有が多いので西洋人は制合に少ない、支那人は自分の商賣の安全を保つ爲に自分の仕事を居留地に於て外國人の名前でやつて居る、之に對しては外國人は少しも權利を持たない

只儲つたら口銭を取ると云ふ位である、斯かる有様であるから支那に對し各國で保全と云ふことを頻りに主張するものがあり權力を均等にすると云ふやうなことを希望するが私の見た所では支那が今の儘の國として世界に永存して優者となることは先づ困難であらうと思ふ、

三　清國の鐵道問題

私は支那各地の鐵道を悉く見た譯ではないが支那經營の上から又支那の國際等から考へると支那の鐵道は外國の資本に依つて建てるのが支那のために非常なる仕合せと思ふ、――支那國としては或は悲むべきことであるかも知れぬが支那人種としては誠に幸福なることである支那人種は既に述べたる如く寺子屋制度の如き教育すらない所であるが實質的には教育上より得る所の智識を此鐵道に依て得られ又此鐵道に依つて早く智識を得ると云ふのである、支那に於ける鐵道の狀態を見るに實に各國が競爭して各其經營を計るために鋭意其鐵道の敷設を企てつゝあるので先づ其鐵道に就て概略を申せば蘆漢鐵道の如き滿洲鐵道の如き餘關西領の雲南に向つて居る鐵道の如き其他香港の側より廣東を經て成都に至る鐵道、緬甸より雲南に至る鐵道、東京より雲南に至る鐵道、廣東より漢口に至る鐵道、膠州灣より濟南府に至る鐵道、上海より天津に至る鐵道等の如き何れも各國が支那に於ける利益を壟斷する考を以て熱心に經營をして居るのである、現に獨逸の膠州灣より濟南府に至る鐵道は高密まで百キロメートルは既に營業をして居る而して他淮縣までの三十キロメートルも最早出來上つて營業は來た致さぬが兎に角竣工して居るのである――膠州灣から山東省の首府濟南府迄は殆ど五百キロメートル即三百哩あるが來年の夏までには成工すると云ふ話しである、山東省には目下大した產物はないが併し獨逸は清國との條約に依り鐵道に沿ふて居る土地に對し礦山採掘權を得て居るので其地質より言へば或は其礦山を開掘して利益があるや否は私の如き素人には何れとも云ふことは出來ぬが兎に角石炭を始め其他の鑛物もあるやうに聞いて居る、而して兎にも角にも來年の夏になれば此山東省の中心を權斷する所の鐵道が出來て之は獨逸に依つて營業を開始されることになるのである、此鐵道の如き貨物の運輸上に少からざる利便を與ふるは勿論人民の智識發達の上に及ぼす効能と云ふものは著しいものであらうと思ふ、又滿州鐵道の如き私が往つたときには未だ西比利に悉く接續する迄には至らなかつたが來設線は極く一部分に過きなくて大抵は出來上つて居つた、長崎に歸着して聞いて見ると露國大藏大臣ロマノフの本國より受取つた電報に依れば丁

度私か長崎に歸着した頃には未だ營業を開始するには至らずと雖も兎に角西比利の浦鹽斯德線に向て接續か出來たと云ふやうな次第である、して見ると滿洲人民の智識は勿論南部若くは中央支那の者とは同一には往くまいが此鐵道の爲に著しき發達を爲すであらうと思ふ、即ち滿洲地方と云ふものは今日迄は太した產物はないか併しなから土地は豊穣で水田は出來ぬが其他何でも穀物が出來て居るので其面積は殆ど朝鮮の四倍もあると云ふ樣な所であるから此處か少しく農作に注意したならば其結果は著しいものと思ふ、蘆漢鐵道の如きも現に大分出來上つて居るので營業して居るのは北の一部に過ぎないが漢口から數十哩と云ふものは出來上つて居ると云ふ實況である、うこで之が若しも日本の如き國にあつたならは非常に歎息すべきことであるが支那の今日の有樣から見たならば斯の如く支那を縱横に貫通する所の鐵道が續々出來てあの大國の交通と云ふものが非常なる發達を爲して之が直接間接に其地方の人民のために利用せられたならば支那の人民をして文明に導き其智識を啓發して支那の產物を最も便利に世界の市場に賣出すと云ふためには非常な効力があるのである、而して其鐵道を敷設する經費は何れから出るかと云へば皆な外國の資本に依つて居るので之れを敷設するの勞働は皆な支那人の手に依つて其の賃錢は支那人が取ると云ふのである自分は金を出さずに寧ろ金を取つて更らに商賣は自由に盛んなることが出來ると云ふのであるから今日の支那人のためには目下各國の經營せる鐵道といふものは莫大なる利益を與へるものと云はなければならぬ而して尙ほ此の鐵道事業に付て將來を考へるに此等の鐵道たる素より開業後直に利益を十分に擧げると云ふ譯には往かぬが其損失は決して支那人の負擔にならずして即ち外國資本家の損となるのである而して其鐵道會社が漸次成立して年を經るに從ひ其會社の株と云ふものは段々廣く賣買せらるゝのであるから遂には其株も亦支那人が多く持つと云ふ時機が來ると云ふことは決してないとは云へない、して見ると損は外國資本家が負擔して結局の利益は支那人が占めると云ふやうなことになりはせぬかと思はれるのである、但東清鐵道の如き未だ株は一も拂込まれずして鐵道は出來て居るやうであるが或は今日の所では露國政府の鐵道と見るが宜いかも分らぬので是れ丈は外の會社と同一に論ずる譯には往かぬかも知れぬが要するに是等總ての鐵道の開通は今後支那に取つて何れの點より見るも非常なる利益を與ふるものであると云ふことは爭ふべからざる事實と信ずる

四　遼東に於ける露國の經營

先づ露國の滿洲占領の狀況に付て申すべ既に述べし如く滿洲の東清鐵道は曲つ

たなどにも出來上つたと云つて宜い現に私は旅順よりキ…ハ…を過て更に牛莊迄此東清鐵道に依て旅行したが其鐵道の狀況は詰り速成を目的として居るために又リッパの用方若くは地面の固め方等が粗雜である、成工を急ぐためにうつ云ふ遣方をやつたので今でも惡い所は直しつゝある、今日の所では清國事件のためと云ふとか又は外の意味か知らぬが多く軍事的に供すると云ふ有樣で寧ろ外國人等の乘るのは喜ばぬと云ふ模樣であるが、兎に角故障なく運轉するやうにはなつて居る、唯支那の人民と云ふ者を眼中に置かずに出來て居るために、其沿道の重なる村とか都會とか云ふやうなものに離れた所に出來て居る、鐵道の架け易い所を目的として少しも貿易上の觀念は入れて居らぬ、併しながら旅順の港、大連灣の南に當つて居るダールニーの港はどうであるかと云ふと之は貿易上の目的より露國は非常に其經營を努めて居る、御承知の通り旅順は即ち一方には軍港となつて居るので砲臺其他の設備も略出來て居る、併し直に其設備が軍人の目から見て直打があるかないか夫は茲に云ふことは出來ぬが兎に角其軍港は表面出來上つて居る、而して旅順に於て今日露國が數千萬圓の金を投じ孜々として力を盡して經營をして居るのは旅順港内の商港である、即ち目下大に其海を掘つて町の經營等を完備する目的で着々工事を進行して居るので、現に私の往つたとき道路杯

を拵へて居つて其町は兎に角數十萬の白晳人種を入れるに足る丈の餘地ある動を拵へやうと云ふので、そして其地所も最早大抵支那人より買ふげて仕舞つたのである其買上に就ては隨分無理談判もある模樣であるが夫は別として兎に角金を遣つて支那人から地所を得て居るのである、現に道路も十間幅八間幅と云ふやうな立派なものを拵へて居るので、私が旅順の民政局次長に過つて話を聞いた所に依ると商港の一部は來年(三十五年)の春迄には成工して幾分の家屋も建てられ之を商業の目的に使はしむる計畫であると云ふ話である、但し海は淺いから目下の所船を深く入れるとは出來ぬが着々之を掘り立てつゝあるのである、夫から又片方のダールニー之は極く上等の港で(大連灣の南頭に位す)水も深い、其設計に付て技師長サカロフ氏の話を聞くに數百艘の船を入れるに足ると云ふとである、或は夫はうう往かぬか知らぬが兎に角結構な港で夏多共に使ふことの出來る程易からぬ良港である、其港は最早大抵出來上つて居つて其内の小さい棧橋には露西亞の軍艦が私の往つた數日前横付けになつたと云ふ話である、其他港内のドック等を夫々拵へつゝあつた、又町も八方に出來るやうにして居る、其港を設計する所の長官に遇ふて話を聞くに東清鐵道は二十五ヶ年の租借に依て出來て居る、港は此通りであるが此港の設計を爲すに當つては東清鐵道會社事ろ露國政府と

一に千四百の支那人民よりダールニー一帶の地面を五十萬圓の金で買つたと云ふことである、而して其設計に依れば支那町と白哲人種町と二つを拵へるので港の中心には白哲人種五萬を入れるに足りる町を拵へ下つて其後に公園を拵へ其次に支那人五十萬人を入れるに足りる町を拵へると云ふので、是迄港に接近した所に居た支那人は何れも立退かしたと云ふことである又此港は水のない所であるが夫は川を利用し水溜を造つて其水を以て五十萬の支那人種と五萬の白哲人種とを養ふに足るの設計をしたと云ふことである斯の如く先づ大体に付て見るに二三の非難すべき點はあるが其設計は先つ宜く出來て居ると思はれるので必ず將來之は非常な良い港になるであらうと思ふ今後露國政府が政治上の方針に依つて之を自由貿易港と爲し且之に這入るに付て六ヶ敷い制限がないと云ふことにしたなら餘程良い有益なる港となつて勢ひ盛なる發達を爲すに違ひないと考へる而して其處の長官が話す所に依れば之は全く貿易上の目的に出たるものと云ふて居る、夫故今後此港は必ず自由貿易港を爲すであらうと信ずるのである、併し旅順との接續上の關係からどう云ふことになるか北清貿易の消長等より如何なる關係を持つて來てどう云ふことになるかうことは憲法に依つて政を行ふ國の如く常律を以て論ずることが出來ぬ國であるから何とも今より明言することは出

來ないと思ふ

五　貿易港と世界の交通

之を要するに露國の盛京省に於ける東清鐵道の目的は露京と太平洋とを直接に接續するにあるので即ち港としては前に云ふ如く旅順及ダールニーの兩港を開き之を以て產物の出入を計り大に交通の便を此方面に開かうと云ふ考へである、然るに茲に一つ考へなければならぬのは浦鹽斯德は既に露國の人民及び獨逸人等が相當の資本を卸して居る所であつて露國と亞米利加との直接の接續に於ては之より便利のものはないと云ふのである元來浦鹽斯德は冬は使用することは出來ない港であるが併しなから數年前より氷を壞す器械が出來て居つて現に今日は其器械が數臺裝置してあるから冬も此港を使ふに於て差支ないと云ふことである、其故是等の理由より現に此港に資本を卸して居る人民は露國政府が他へ以て往て大なる港を起すと云ふとは甚だ喜ばぬので從つて旅順若くはダールニーの如き港を自由貿易港と爲すと云ふ場合があつた時には自ら浦鹽斯德も同一のことにしないと困るやうなことがありはしないか、要するに浦鹽斯德に居る人民は既に資本を卸して居るから他に露國か大なる港を南の方に起すことは望んで居らぬ、其故露國としては浦鹽斯德ダールニー、旅順此三つを貿易港として相當の

途を執らなければならぬと思ふ、即ちダールニーを自由貿易港とする以上は或は浦鹽斯德に於ても自由貿易港論の出るとがないとも云へぬのである世間では或はダールニー港が出來て鐵道が成工したならば浦鹽斯德から露京に達するのが十四五日又旅順ダールニーから露京に達するのが十五六日と云ふやうなことであるから世界の交通は悉く重に此方面に據るであらうと云ふやうに考へて居るが自分の見る所では交通の上に於ては左迄恐るべきことはないだ迄盛なる交通と云ふことにはなるまいと思ふ、何故なれば鐵道に依つて續けて十四五日も旅行するを云ふことは中々困難のことで奇を探る文人騷客の如きはいざ知らず普通の旅人としては非常な急用の外は出來得られないことゝ思ふ、特に弱き人の如きは迚も堪へ得られないことゝ信ずるから矢張船の旅行と云ふものを夫かために六に減ずると云ふことは容易に信ぜられない、又貨物の運搬に就ても矢張其船は同一であらうと思ふ貨物の運搬に就ては大抵一哩幾らと云ふ標準に據るべきものであるから浦鹽斯德又はダールニーより露京に達するには五六千哩もあることで此運賃と云ふものは非常に大きくなるのである試に亞米利加の東海岸即ち紐育方面から日本又は東洋に來る所の產物は如何にして來るかと云ふたならば總分重なる產物は或は南亞米利加を廻り若くは印度洋を經て來ると云ふ有樣である其故に遠廻りをする點から云へば西比利を通らずして印度洋を通るのを南の南亞米利加の「ケープホルン」を越えて來るに比すれば其差は差したることでないが其他に於ては餘り信じられないことであらうと思ふ、若し之を露國政府に於て大に貨物の運搬を盛にしやうとしたならば非常なる安き運賃を以てやることにしなければならぬ併し夫は經濟上到底長きに堪ゆることではない、此ことに就き一の例証を擧げれば嘗て英吉利の公法學者ローレンス氏が「スエス」海峽の局外中立問題が起つたときに辨した書に據れば英吉利から船を印度に送るに就てスエス海峽に於て噸稅を支拂ふ費用と喜望峯を廻るために要する石炭の費用とを比較して見ると次した違ひはないと云ふたことがあつて只英吉利の當時の輿論として今日文明の利器を利用せんのは宜くないと云ふ位のことで僅に流船が地中海を經て「スエス」海峽を通ることになつて居ると云ふことである

偖右の如く西比利鐵道も全通し且は南北亞米利加間の「コカラガ」運河も愈々英米兩國の間に協議整ひ之か開通を計ることゝなつたに付ては自然亞細亞と歐羅巴との關係幷に米國との關係何れも從前に比し一層盛なるに至るは多言を要せぬ事實である就中支那に對しては各國より鐵道を敷設し支那の產物を外國に出し

又外國より貨物を支那に入れると云ふことが今日に比し幾層倍にもなると云ふには長い時を要せぬと思ふ、且亦船を以ての貿易としては西比利、支那の兩方面に對して日本は最も樞要なる場所であるは疑ひないとである前述ふる如くダールニー及膠州灣が自由貿易港となると云ふことの爲に是等の方面は追々盛ぶなるであらうけれども我國に於ても一の自由貿易港を造ることが種々の點に於て利益のあることと思はれるので第一に日本人は之より如何にしても商工業を以て支那西比利等に向つて益々進まなければならぬのである、支那に於ける工業に付ては素より我工業者が大に進入することを要するので商業に於ても又同樣である

が併しながら尙我內地に於ても一の自由貿易港を置けば將來各國の貨物を東洋に運搬し又其運搬したる物に加工をする點に於ても自由貿易港があれば非常な便利があるのである單純の商賈上のみの貿易港としても商業者のために我國に優等なる貿易港を要するのである、更に貨物をあちらこちらより持つて來て而して更に之を各般の用途に向ひ供給を掌ると云ふことの出來ることになれば其利益と云ふものは實に非常なことであらうと思ふ、現に今日淸國に於ける我商業者の如きは最早單に淸國の物產を我國に輸入し又我國の貨物を支那に持出すのみではなく淸國に於て需要する世界各國の物品に付ても矢張競爭者の一人となつて居るのである故に單に兩國丈の貿易と云ふことでなく世界の貿易として努めなければならぬ、して見る以上は矢張一の自由貿易港と云ふものを日本の便利なる場所に造るが必要であらうと思ふ私は貿易港の制度に付て未だ充分研究したことはないから如何なる方法に依るかと云ふことは今日斷定することは出來ぬけれども現に角製造及商業の二點に於て此自由貿易港を造ることの必要なるを大に認むる所のものである其場所は詳り獻米を目的とすることであるから矢張神戸若くは長崎等が最も便利なる地ではないかと思ふのである

六　獨逸の膠州灣に於ける經營

獨逸の膠州灣に於ける即ち青島の計畫に付て見るに此起業は露國の旅順大連灣に於ける經營よりも數月先にして起してあるがために餘程進歩したことを見たのである、實に其設計は頗る完全したるものと云ふて宜い、現在の港は冬の港と云ふ分で之は天然の儘に棧橋を架けた丈である、之は支那政府の時分にも稍々幾何か手を付けて居つたものであるか獨逸か力を入れ港を造らうとする所のものは二つあるので即ち一は大港一は小港である兩方共に既に突堤等も出來て居るか之はダールニーの如く深き海でないから尙數年を期して中を堀らなければならぬ(小さい方は出來て居るか方此は大き方の話しである)之は有名なるキールの運

河を堀つたフェーリング會社が七百萬克で引受けてやつて居るのである、其突堤は既に出來上つて居るが其長さが六キロメートル(我五十四五町)で今現に内を掘ると、石炭の揚場と普通の貨物を揚げる所とを拵へ中である、町は矢張大体に於て露國の立方と同じであるが獨逸は自ら文明國丈あつて其處に人を居住させることに付て公平なる方法を採つて居るやうに思はれる、此港に於ける總ての地面は矢張露西亞の如く支那人から悉く買上げたのでして先つ上水を其往來に通じ又下水も拵へ町の出來ると其に上水も下水も路も出來ると云ふ位で目下盛に町の中に家を建築中である、ホテルの如きも既に三四軒出來て居る特に「プランツ、ハインリヒ」と云ふホテルは上海天津のホテルに劣らぬのである又電氣燈も市街の重なる處には點けてある現に八百人からの獨逸人が營業に從事して居るのである之は前にも申せし如く來年(三十五年)の夏には濟南府迄鐵道が開通する譯になつて居るから其曉は直に盛なる良港となるに相違ないさうなれば此山東省の貨物も少くとも十分の五以上此處に出るやうになりはせぬかと思ふ而して此町も露西亞の經營と同じく支那人町を裏手に遣るやうになつて居る併し此町の制度では支那人と雖も或る制限の下に歐羅巴人と同じく其内に住ひ得るとの途が出來て居る、又此地所は政府が買上げたのであるが夫を人民に入札で以て與へるので其入札の價格と云ふものは高くもせず安くもしない現に日本人も其入札を受けたと云ふこともあるやうに聞いて居る、其代も最初の内は自然繁榮と共に直段も上るとであるが、あらく高くなることを許さぬ所から若し其所に住居する商人が移轉するときには政府が相當の割增代價を以て家を買つてやると云ふ制度も立つて居る其計畫は中々能く出來て居るやうに思ふ、獨逸政府が希望する所の石炭の如きものが鐵道附近にないとした所で此鐵道も既に濟南府迄直に出來る樣になつて居り北京にも接續が出來ると氣候は寒ではあるし必ず東洋に於ける相當の港となるに疑ひない、特に水邊は最も奇麗であるから上海、香港等の外國人は夏に避暑をすると云ふにも最も適當なる場所と思はれる(此港は一兩年の内に出來上るか北風のときには隨分船が此港に這入るに困難ではないかと思はれるか併し前に申す如く天然の港か外にあるから困らぬと云ふことである)併しなから此港か右の經營に依つて自然宜くなれば芝罘は夫がために餘程影響することゝ思ふ、又多は天津との交通は六ケ敷いのであるから鐵道が北京に開通した上は此地方は往來の一要部となるのであらうと思ふ

七　秦皇島に於ける英國の經營

次に直隸省秦皇嶋の設計に付て大略を申せば之れは御承知の通り開平炭かあつ

て英吉利等の會社に依つて現に開鑿されて居る所から八九十哩を離れた港である、開平、唐山等の地方から一番近い港は即ち此秦皇嶋及太沽の二つであつて唐山より太沽秦皇嶋へは何れも八九十哩あるのです、所が太沽の方は冬になれば船の交通も止まり又海も淺いのであるが之に反して秦皇嶋の方は近くまで船が來られるからさうか之を一の凍らざる港として其設備を完全にしようと云ふとで昨年頃英吉利人が委員を作つて此港の調査をなした而して其調査に依ると現に在る所の突堤の外に又右の方に今一つ長き突堤を作つて港を造らうと云ふ考である、又左の方には既に一哩近い突堤が出來て居て津榆鐵道中湯河と云ふ處より此突堤へは鐵道も敷設してあり現に其突堤より小さな船にも船積みすることが出來るのであるが元來此處が港の形をして居らぬから天氣の宜い時でなければ勿論船積を爲すことも出來ず又冬の如きは凍らぬと云ふけれども矢張北方遼河方面の氷の固りが風に依つて流れて船にぶつかると云ふことがあるために矢張安全に船を置くことは出來まいと云ふことである、良し港が出來て深く掘ると云ふことにした所が矢張右樣の次第であるから冬の航海を安全にすることは當てにならぬと思はれるのである、況や其附近は決して深い海でなく淺い方であつて沖合の數哩の處は矢張二十尺乃至三十尺以下であるから港を深く掘つた所が効用

を爲さぬやうに思はれる況や開く所に依れば今突堤を築かうと云ふ場所は岩や砂が混つて居つて突堤を堅固に築くは六ケ敷いと云ふことを其地方の英吉利人が云ふて居つた、夫故に其港を愈々造ると云ふことに付ては隨分委員の人々は熱心に主張したるやに聞いたが今にどうもなつて居らぬやうである、此港は私の見る所が違つて居るか知らぬが決して宜い港にならうとは思へぬ、英吉利人の鐵道に從事し既に十年も其處に居る人の話に港として之を拵へた所が太沽より大に優ることも出來ず且之から港を拵へ其港に運搬に付ての總ての裝置を爲すと云ふことは實に愚の極であるから之は此英吉利人の組合つて居る會社でもものにはすまいと云つて居つた、即ち冬は矢張太沽と同樣に役に立たず船も大きなものを横付にすることは見込がないから今迄夫々器械抔の備つて居る太沽を捨てゝ此處に力を入れると云ふことは其距離の點から考へても何れの點から考へても深く信用されぬ話と云ふて居つたのである而して此港を御話しする以上は之を造る必要の所以に付て一言御話しなければならぬが御承知の通り此港の必要の起つたのは石炭を出すことが目的である、彼の開平炭は是迄隨分澤山に出たので即ち千八百九十八年に此開平炭の出た高か七十三萬二千噸である而して又唐山からも同時に四十七萬噸を出して居る又林西からも二十六萬二千噸を出して居る即ち

合計百四十六萬四千噸を此地方から出したのである、然るに翌年に至つては俄に其產額と云ふものが減つて仕舞つた、即ち開平炭が最もひどく減つて仕舞つたので今日は殆ど休業同樣で何でも其設計等を仕直すと云ふ計畫になつて居る又唐山も目下掘つては居つたけれども水の出るのと又其炭層が稍縱になつて居る爲に堀るに付ても困難であると云ふことで是れがために除計堀出すことが出來ないと云ふので之も又產額が減つて居る且又其品質も惡い我九州の二等炭より上でないと云ふことである、畢て鐵道を管理して居たキンドルの說に依れば山海關、天津等の鐵道にすら之を用ゐるのは宜くないと云ふて居つた位である、之は元より英吉利の流儀で英吉利のカージフ炭を用ひたら宜いと云ふをかも知れぬが何しろろちく宜い石炭でないことは疑もなくうして私が見た所では先此三つの石炭山から出る石炭が今日では一日八百噸を越へないと思ふ、尤も其石炭のある方面は二十五平方哩位あるのであるから愈々此設計を改めるやうになつたならば相當の石炭は出ることにならうと思ふが目今の所は大したことではないと思ふ、且秦皇嶋も今日のやうな次第であるから我九州地方の石炭業者に於てゑらく心配するには及ばぬと思ふ併しながら現に開平炭の如きは其設計を矢々變へて更に開堀の用意を爲しつゝあるのであるから夫が出來た曉には何さも云へぬが港が前申す如きものであるから年中此處から石炭を出すと云ふことは到底當てになることではないと思はれるのである

八　清國の貿易幷に起業

支那の貿易は先づ北支那の貿易、揚子江の貿易、南方の貿易との三つに分つて論じなければならぬが、南方の貿易に付ては勿論香港廣東等が其貿易の基礎點となつて居るので之は將來鐵道が出來た上でも大体に於て外れないことゝ思ふ揚子江の貿易に付ては之は上海が起點になるのであらうと思ふ、又北支那貿易に付ては如何であるかと云へば今日は芝罘、天津、牛莊此三つが重なる所であるが此處にがルニー、旅順、膠州灣等が出來上つた曉は其貿易に付ては大に其狀況が變つて來ると思はれる是迄北支那貿易に付ては英吉利が數年間迄は最大勢力を占めて居つたのであるが日清戰爭後に於ては日本も又此北支那貿易の中間入をして漸次發達して來て居る且亞米利加も此北支那貿易に付て盛になつて居るのである、今一々統計に付て之を云ふても宜いが先づ其れは省いて大躰を申せば英吉利の北支那貿易は何れかと云へば退歩の方に向つて居ると云ふて宜い位である、之に反し日本と亞米利加のが割合に能く進みつゝあるやうに思はれる、又將來に於ても日本の北支那貿易は益々販路を擴め貿易を盛にすることが出來やうと思ふ、畢竟

北支那の方は外國が其貿易を遣つて居るとは云ひ乍ら南方の如くに總ての機關が十分整ふて居らぬ所から他の新なる貿易業者が這入り易いのである御承知の如く南方に於ては既に夫々商賈の機關が何れも整ふて居るが北方に向つては比較的に之が整ふて居らぬのである又其輸出入する所の品物の關係等も多くなつて居らないのである斯の如き事情であるから北方に於ては尙新開地として茲に仕事をなし得らるゝ餘地があることは事實疑ひないのである特に日本は自然朝鮮貿易の關係から引續いて往く所のものであるから將來に於て大に見込がある又若々進んでやらなければならないことゝ思ふ平たく云へばあちらより受くる所の大豆、豆粕の如きものあり、こちらから入れる石炭或は綿糸の如きものかある次第であるから此るのか一の根底となつて更らに各般の貿易品に向つて進んで往くことか出來やうと思ふ、所で新しい港で旅順、ダールニーの如きに付ては何れの國か優者となつて貿易をするかと云ふと最も獨逸人の所爲に付て注目をしなければならぬとである御存知の通りに獨逸人は其の智識と勤勉と儉約と又其地方に往つて地方の風俗習慣に幾分か慣れ易いと云ふ傾きを持つて居る所から英吉利人亞米利加人の如く何處の國に往つても自分の國風を守ると云ふやうな頑固なる氣質かなくして往く所の人種であるのみならず露國の二港に於ける間接

事業に付ては多く請負事業を獨逸人か爲して居るのであるから夫か階梯となつて北清貿易に付ても一大勢力を爲すに至りはせぬかと思ふ、旅順港内のドックの如きも現に彼の有名なるハンキッケン氏が請負つて目下ハンキッケン氏が旅順に往つて居るのである之れが基礎となつて獨逸人種か入込み獨逸の品物が這入り其處の地方の事情が通して段々貿易を發達させることにならうと思ふ、又膠州灣の如きは獨逸人に依つて起業されて居る獨逸の港であるから此處の地方に於て獨逸人が優者たることは疑ひないことゝ思ふ、而して更に南方の貿易及楊子江の貿易に付て之を見るに此方面は英國の勢力甚た盛であるのです廣東、香港は今之を云はゝ上海の如き楊子江沿岸各港皆英國商人の範圍内に在り殊て楊子江には數十の英國軍艦も碇繫して保護をして居ると云ふ次第で尙此地方に於ては貿易上に於ける夫々の機關も備つて居ることであるから新なる人が其處に這入つて事業をして之を發達させると云ふことは隨分困難であると思ふ、さりなから御承知の通り大阪商船會社が彼の長江航路に付ては既に定期の航海を爲し殆ど毎週二回位上海から漢口に往復し且漢口より義州迄も同會社の船に依つて航海されて居ることであるから自然此船のために貿易と云ふものは段々發達せらるゝやうになるやうと信ずる、且又蘇州、杭州に向つては大東汽船會社も日々船を出して

居るのであるから自然是等の關係より相當に日本人の往來も殖へ從つて商業も漸次進んで來やうと思ふ、特に工業のことは一層其傾きを持つであらうと信ずる、且亦日本人の生活と云ふものは之を泰西人の生活に比較すると餘程支那人に近い方で又文字も同じことで現に支那に於て日本の文物制度に倣ふと云ふ今日であるから支那の揚子江に於ける工業と云ふものは漸次日本人の手に依つて行はれて往くことになるであろうと思ふ又勉めなければならぬとと思ふ、而して其實本は或は外國人か出すのもあらう支那人の出すのもあらうか要するに其仕事は日本人に依つて整理せられた方か宜いと云ふことであるから漸次さう云ふ傾きを生ずるやうにならうと思ふ、現に上海の浦東にある製紙會社の如き其資本は多くは露西亞人、亞米利加人に依つて出されて居るので、本年(三十四年)夏頃から開業して居るのであるが其事業は全く日本人に依つて經理されて居るのである、支那人は能く働き、奇用でもあるが整理をする點や責任を負ふ點に至ると兎に角日本人の方が宜いやうに思はれる、外國人は其生活の程度が高いから工場に這入つて夫々の監督を爲すと云ふことに付ては中々及ばないことゝ思ふ、而して今の製紙會社の如きは開業日淺しと雖も現に宜い成績を現はして居るのである、夫故之が一の模範となつて揚子江の工業は漸次日本人が經營するやうになりはせぬかと思ふ、上海にある紡績業若くは武昌にある各種の工業場と云ふやうなものは私も二三見たが外國人の下に經營されて支那人に依つて仕事をして居るものは創業以來數年になつて居つても未だ嘗て一度も利益を見ることが出來ない、之は畢竟整理が立つて居らぬから斯り云ふことになつて居ると思ふ、支那人も夫等のことに付ては大分注目する所があるやうであるから今申すやうに支那人の資本外國人の資本に依つて經營される所のものも漸次日本人が請負ふやうなことにならうと思ふ、又其途を今後大に執ることを切に望むものである從て政府は宜しく我日本人の商業家と云はず工業家と云はず勞働者と云はず醜婦と云はず多數の日本人が容易に渡清し得るやうに注意せねばならぬ

九　清國に對する日本航海業

清國の航海業に付き大要を御話しすれば歐洲より清國に至る航海は香港、上海が其中心點で天津と北支那とに對しての歐洲の航海は悉く上海に於て積換へると云ふやうな順序になつて居る亞米利加よりの航海業も我横濱神戸を經て上海香港に至ることになつて居る、然るに我日本は支那と隣國になつて居るため清國との交通は大体に於て右の積換等の如き不便なる方法を採らずに致すことが出來るやうになつて居る、郵船會社の神戸上海線の如き既に我政府保護の下に於て才

數年來の經驗を經て居る所のものである從つて清國と我國との貿易に付ては最早今日に於ては我郵船會社の手に依つて行はれると云ふ時代に至つたのである、特に又北支那方面に至つては日清戰爭前に於ては殆ど其直通の線路はなかつたが今日に於ては門司より直に芝罘天津に至る線があつて又神戸門司より直に芝罘牛莊等に至る線路もあるので又門司或は長崎等より朝鮮を經て北支那に至る線もあるのである、故に清國と我國との交通及其貨物の運輸方法は今日に於て餘程發達して居ると云ふて宜い唯若し此の線路に付て非難するものがあるとするならば上海長崎間の航路に供してある我船舶が之れを歐米各國の郵便船に比して其航海力が甚だ鈍いと云ふことを感ずるので會社としては經濟を專とすることであるから素より已むを得ぬことであるが若し將來郵船會社の支那に對する航海に關し希望する所を云はしむれは此線路の船をして一時間十二哩を走れる船を使用する代りに十六七哩をも走れる船を以てすることにしたならば今日四十時間を要する代りに獨逸英吉利等の船が二十六七時間を以て長崎上海間に往來するとが出來るに比して餘り遲延がなくなつて即ち旅客としては船の内に二晩宿らなければならぬものが一晩で濟むとになるのである之は漸次郵船會社に於て夫々改良を加へられんとを希望するのである、楊子江内の航海は今日大阪商船會社に於て我政府保護の下に數千噸以上の船四艘を以て航海をして居る次第であるが其船は何れも近く出來た船であつて船も上等である航海力も中々盛である之を他の獨逸英吉利等の會社の船に比すれば大体に於て勝るとも決して劣るとはないと思ふ、之は上海漢口間を双方より三四日間目に往來して居る又漢口より上も沙州義州間の航路もやつて居る、故に楊子江内地に對する貿易に付ては直接我船に依り即ち郵船會社、商船會社の船に依つて運送を爲すの便利が出來て居るのである、然るに此楊子江の航海に付ては商招局及英吉利の航業會社印度支那の航業會社の如きは何れも相互に聯絡をしてやつて居るので夫がため旅客及貨物の運搬等に付ても彼我融通の便を開いて居るのである、然るに我郵船會社は未だ他と聯合し居らざるが故に楊子江を往來する旅客等に取つては幾分の不便を免れぬのである併し之は今日に於て已むを得ざることゝ思ふのである、獨逸の如きは未だ何れの會社とも結付を致して居らぬため矢張同樣の不便を感じ居るのである、特に楊子江に於ける獨逸のロイド會社の船は何れも上海に於て製造せられたる極く薄弱なる船で獨逸の船長すら紙船と云ふて惡口を云ふて居つたのである從つて獨逸は今大に楊子江の航海業に付て勢力を得んとすることに努めて居るには相違ないが今日の所では未しれ心配を爲すことは入らぬと思はれる若

し我商船會社に於て此會社と聯合しやうと云ふたならば喜んで應ずる位の所であらうと思ふ、獨逸及露西亞各其占領地を有するが故に其占領地に對する定期航海を開くために今日數艘の船を保護して居る即ち獨逸に於ては膠州灣と上海芝罘との結付けを爲すために數艘の蒸滊船を保護して居るのである、露國も又旅順大連灣と芝罘との結付けのために日々双方より船を發着せしめて居る、英國は其占領せる軍港威海衛のために我國の船と契約して芝罘より一週間二回宛の往來を爲さしめて居るのである右の如く我國の清國に於ける航海業者なるものは今日に於て大に發達して來て居るのであるが唯此清國の各港に對する荷爲替保險等の準備が未だ悉く備つて居る譯に至らないのであるから國くは此銀行業と航海業との結付を一層進めると云ふことが最も今日の必要なることであらうと思ふ、正金銀行の如きも上海天津牛莊等に支店を持つて居るが未だ揚子江の内に至つては一も荷爲替等の途が開けて居らぬ夫故に日本より揚子江の沿岸貿易港に貨物を送らうと云へば矢張一々上海に於て荷爲替等のために特別の途を執らなければならぬとなる之では唯日本から揚子江沿岸への運賃を安くしたと云ふても其實効を我貿易業者に與ふると云ふとは餘程六ケしいのである、是等は我郵船會社商船會社に於て我貿易業者と共同して正金銀行に迫つて其途を開かしむるとが必要ではないかと思ふのである、而して何揚子江の内宜昌より南京に至る航路及び洞庭湖沿岸の航路の如きは素より大船を以てするとは出來ないけれども小蒸滊等の便を以て曳船等のことをなすならば兎に角同地方は清國の中心である、ることと故に必ず同地方に向ふては我國の貿易を發達せしむるの階梯となり進んで重要なる得意先となることを信じて疑はない故に是等に付ても亦我航海業者及貿易業者の注目を要することゝ考へる

十　清國各種産業の概要

既に我邊は支那人種、支那國と云ふことに付て御話をしたが更に支那の國富即ち支那の國土と云ふことに付て一言御話したいと考へる、此問題に付ては私は地質上又は土性上から御話しをして詳細なる事項を申述ぶることは出來ないが書物にもあり學者の書いた著書に依つても明かであるから暫く省くことゝして先づ産物の度合が如何であるかと云ふに矢張北と南とに分たなければならぬ、北は御承知の通り雨を持たない地方である、僅に夏の内の數ケ月間入梅の如き雨がある丈で其他は九で雨がないと云ふて宜い、故に農業の上に於ても大躰我國の水田の如きものは六ケ敷いので陸田として用ゐるより外仕方がないが土壤は先づ上の上と云ふて宜い位である、故に今日に於ては專ら牧畜を基礎として穀物を植ゆる

次第であるが清末に於て少しく支那人民の知識が進み交通の便を開るやうになるに從つて自然農業が著しき發達を爲すであらうと思ふ、山林の如きは殆ど皆無と云ふて宜しい、併しながら之は其山の形に於て岩の多いためと又水が足らないと云ふためで殖へ悪いと云ふこともある又曾て山林に重税を課すると云ふやうなことがあつたため悉く木を切つて仕舞つたと云ふ歴史もあるのである、實は今幾分か奬勵の途を立てるか又は特更に奬勵せずとも夫等の林地に對する租税等に付て少しく注意を爲すと云ふやうなことがあつたならば必ず大に山林が發達することゝ思はれる、獨逸の膠州灣の如きは現に其占領の當時より獨逸國の木の種又は日本の木の種を多數に其附近の山に蒔付けたのである、夫は現に成育して居るから決して木が殖へないのではない、雨の常にある所のやうには宜く往くまいが雨を多く望まない種類の木を選んでやれば左迄の困難はないと思ふ、獨逸の如きは今日山林の制度も能く立ち各國が模範とするやうな所であるけれども其成育の狀況を見ると我國の樹木の成育に比し殆ど半分位しか往かないやうに思はれる即ち我國に於て四五十年で切出す物が尚八九十年も要するやうに思はれる又事實其樣に聞いて居る、而して北支那の如きは或は成育の度合に於て獨逸よりも困難であるか知れぬが決して捨て者ではないと思はれる、夫故是等も今後其方法を充分やると云ふことになれば必ず相當の發達を爲すであらうと思ふ、夫から又楊子江の附近の如きは勿論水の關係に於ても地質の關係に於ても甚だ豊穣なる所であるから之は勿論遠からざる内に農業等の進歩に依つて大なる富を生ずることになるであらうと思ふ、江蘇省の如きは米田も甚だ盛な有樣である、併しながら其植付の方法給水の方法等に付ては我國に比し大に劣れるの感がある是は固より運河等の關係に依つて一概に批難は出來ないが米の收穫の割合と其値段等の割合が決して能く往つて居らぬのである、夫故に必ず之は改良を加へなければならぬと思ふ、現に杭州の如き或は湖南の如き既に我國より農學士等を聘して居るのであるから漸次夫等の改良も出來やうと思ふ、夫から次に生糸即ち養蠶業に付ては今日既に支那か世界中第一の產額を持つて居るのである、然るに其桑田の盛なる地方を見ても決して一面我國の如き桑畑と云ふやうな所はないのである、故に風も能く通り桑も能く成長するので爾の種類の如きも決して悪いのではないのである夫で今後我國の今日の養蠶事業の如き發達か支那に起つたならば他の養蠶製糸を以て貿易の重なるものとして居る國は一大恐慌を來すことがないと云ふことを保することが出來ない杭州の如き武昌の如き既に養蠶學校も、作つて居るのであるから數年の後には支那の生糸も更に一層の發達を

見ると信ずる水産の如きも相當に各種の水族がある、塩田の如きは特に北支那に於ても盛で、又南方に於ても同樣である且亦内地に於ても岩塩が相當にある、即ち四川省の如きは最も多いやうである、之から開掘すれば充分見込がある、今日清國に於て一種の塩税があつて專賣を行つて居るために塩の價格は隨分高いのであるけれども他日に至らば必ず是等のことも變革せらるゝ時機があらうと思ふ、前年遼東半嶋を我國に於て取ると云ふやうな問題が起つた時分にも鹽の摸樣等を調べたことがあるが遼東半嶋に於て塩の生産費は一石十七八錢位で出來るとであつた、今日に於ても大差ないことと思ふ、即ち北清地方に於ての塩の生産費は臺灣に於ける生産費より安いことは斷定するに憚らぬ次に礦山に付ては未だ多く詳細なる調査が出來て居らぬから如何なる度合であるかと云ふことは云へぬが、金、銀、銅、鐵、石炭等も何れも相當のものを出すことが出來やうと思ふ、日本は既に今日に於て文明の發達と共に最早我國の産物を以て優に生活することは六ヶ敷くなつて來て居る、其故に大に力を商工業に盡さなければならぬ從つて我國人は大に外に出て往くことが必要の次第であるされば若しも或る方法に依つて清國に出ることが出來ると云ふことであるならば大變結構のことゝ思ふ、支那人の生計の程度が低いことから見れば支那に往つて勞働者になることは甚だ望のないとであるか若し支那に於て工業其他農業等の事業に從事すると云へば自ら其内に於て監督者管理者と云ふ方になり易いのである、うなれば自然又細民も相伴ふ途があるから之は北支那なり楊子江なり何れにか出て往くことは最も宜いとと思ふ、又其途を開く法を採らなければならぬと思ふ

十一　清國の鐵山及製鐵所

扨此場合に清國の鐵山及製鐵所のことを一言申述べやうと考へる、御承知の通り清國の大冶鐵山は我製鐵所に於ても其鐵礦を年々凡り五萬噸許り我國に輸入して使用することになつて居るので今年(三十四年)は製鐵所も既に事業に着手した所が我國の製鐵所所屬の赤谷及加茂の鑛山等は未だ開掘に至らぬものであるから自然支那の供給も餘計に仰ぐの必要がある、從つて本年は普通よりも多く即ち十萬噸ばかり清國より輸入するを云ふことを聞いて居る、私は支那の大冶鐵山の摸樣はどんなものかと思ふて往つて見たが大冶鐵山の位置は楊子江中漢口より凡り五十哩ばかり河下に黄石港と云ふ港がある夫より一里ばかり隔つた所の石灰窟と云ふ所の側にあるので其鐵山の面積は餘程廣いものであつて數十平方哩一面に鐵山と云ふて宜いのである、同山は元來張之洞の起業したる所であつたが今は專ら盛宣懐の所有に屬して目下獨逸人フキリツプ氏が其處の主任技師とな

つて開堀して居るのである、其盛宣懐に屬する鐵山は凡り現に開堀して居る所の部分丈であつて尚其周圍も云ふものも悉く鐵山であるからフォリップ氏は矢張之を盛宣懐の所有に屬せしめやうと云ふ意見を持て居つたが未だ其運ひに至らざる内に張之洞が其周圍を今度新に自分の所有にして仕舞つたと云ふことを聞いたのである、其鐵山の鐵鑛の種類は一は硫黄等を幾分か含むものと又他の一種は少しも硫黄燐等を含まない所の種類と二つある、硫黄又は燐を含む所のものでは御承知の通り鋼鐵の善良なるものが出來ないのである、併し乍ら普通の鍋釜類の如きものに造る所の銑鐵材料としては硫黄を含む所のものでも差支はないと云ふことである我農商務省が清國より取寄せて居る鐵礦は即ち此硫黄又は燐を先づ少しも含まぬ種類のものを取寄せて居る、其鐵山の鑛量は先づどれ丈かとフォリップ氏に尋ねた所が急ぎの旅行で山の上の話しであつたから彼も確かなる數字は記臆し能はぬ、何れ後とで送つて呉れると云ふ約束であつたが大躰に於て先づ九千九百萬噸以上あるは疑ひないとことである、と云ふ話であつた、其内所謂硫黄等を含まぬ所のものが先づ半分と云ふことである故に先づ五千萬噸の上等鐵礦があるのであるから一年五十萬噸づゝ堀つても尚百年も取ることが出來る、加之此地方には悪いながらにも石炭もある蒲俺もある石灰もあるアロマイドもある

る即ち悪いながらにも殆んど製鐵用に於て礦鐵を製造すべき必要なる各種の材料は悉く一緒に集つて居ると云ふて先づ宜い位である、又た其山の側に大なる木の殖へて居ない所の山があるから之も鐵かと云ふて尋ねて見た所がフォリップ氏の話しに此大なる山は數百年前に於て即ち明以前に於て清國政府が鐵を堀り其處で鐵類の製造に從事したる鐵を取つた精であると云ふことであつた、其精を充分に分析もし又調査もした所が夫には先づ五割位の鐵を含むと云ふことである、して見ると大冶の礦鑛と云ふものは先づ六割の鐵を含んで居ると云ふので——又今の精が尚五割を含んで居ると云ふことで之は獨逸の如きに於ては鐵山に於て普通買ふる所の相場と云ふものが先づ一噸十二馬克(即ち我六圓餘)計の價値のあるものと云ふて居るのであるが即ち九千九百萬噸の鐵鑛の外に殆ど同樣に測り知るべからざる多數の鐵の精があるので當時製鐵の技術も進まずして斯の如く多分の鐵量を殘した精があるために之は更に製鐵用の材料に供するとが出來るから全躰の其鐵の量と云ふものは著しきものと云ふて宜い、且其鐵山より港迄は獨逸式の鐵道が敷いてあるので山で只崩して後の鐵てない所の石類を除いた鐵鑛丈を卸すと云ふより外に何も手は掛らぬのである、誠に採堀の費用は少いのである、即ちフォリップ氏の話しに鐵を山から堀出して楊子江に横付にして

■ある二三千噸の船に直に積込む迄の總ての費用が一噸に付て六十五六錢から七十錢位迄であると云ふことである夫故に此鐵と競爭すると云ふ鐵山を持つとは隨分困難と思はれる加之又九江方面にも鐵山があつて數月前フキリップ氏は是が探究を爲した所が何れも上等の鐵鑛であると云ふことである然れども是は未だ「ボーリング」を爲した譯でないから其鑛量は明言せられぬと云つて居つた乍去清國今日の狀況にては大冶鐵山丈けで餘りありと云ふて宜いので其鐵山の鐵鑛は今如何に之を使用して居るかと云へば第一の得意が漢口製鐵所で其次が我國の製鐵所である、右の次第であるから先づ大略漢口の製鐵所の模樣を申上げやうと思ふ、此製鐵所は矢張元と張之洞の創立したる者で目下盛宣懷氏が負債と共に引受けて經營して居るのである、即ち今日では之は株式會社になつて居るが其規模は元と大變大きなものに聞いて居つた然るに實際親しく見た所では先づ其裝置と云ふものが我國の製鐵所の凡そ四分の一位の仕掛けと云ふて宜いかと思ふ金高に於ても先づ我製鐵所の半額より費やして居らぬ、目下專ら蘆漢鐵道のレール等を拵へて居る、元來此製鐵所の最初の目的は槍砲局の用に供するため即ち清國の兵器を造るが第一の目的であつたが兵器用の材料としては是迄多く使つた鐵礦が鑛黃を含む所のもの多かりしために種々の批難もあり且コークスの如きも

硫黃を含む所のものを多く使つたためにえらい宜い成績を見なんだのである、うこで今日では專ら鐵道のレールを製造することに從事して居るのである、尤も其外に除業として槍砲局の兵器用の材料も造つては居るが日々の鐵の製出高は先づ七八十噸位が極度である、我製鐵所では今日熔礦爐一基のために先づ日々百六七十噸より製出し得ないが詰り熔鑛爐二基を裝置することになつて居るために漢口の製鐵所と我製鐵所を比較すると日本の方が即ち四倍からになるのである、レール工場の如き其他各種の工場も我國のものに比すれば矢張り四分一位のものである、ベスマルの爐もマルチンの爐も我國に比すれば餘程小形のやうである、現在の收支如何かと云ふて尋ねた所が今日では損をしてやつて居る次第である、尤も一噸のレールを造れば其に付て二兩の稅金を張之洞の衙門に納めて往く今日の制度になつて居るので之は損しても儲けても第一着に拂ふ筈になつて居るのであるが未だ嘗て本統の精算を見るに至らないと云ふことで即ち損してることであらうと思ふ、茲にはベルジャム人が居つて技術上のことを擔任して居る併し乍ら總ての職工は皆支那人を以てやつて居る而して此製鐵所は右のやうに今日に於て尙損をして居る次第であるから之は將來に於て大に改良擴張すると云ふことは隨分六ヶ敷いと思ふ、故に差向き彼の豐富なる大冶鐵山の鐵鑛は思ふや

うに捌けさす途は餘程困難であらうと思ふ、然るに支那の要路に居る人は兵器用の材料にする鐵類を我國に送るといふことは支那政府又は其要路に居る人々の全く好意に出るか如き語氣を洩して居るか右の有樣であるから實際之は日本等に向けて輸出することは清國のために非常なる必要のことであらうと思ふ、即ち日本は大切なる顧客と見て宜いのである

十二　專管居留地問題

專管居留地に付て一言申せば天津の如き蘇州の如き漢口の如き何れも皆我專管居留地があるので此專管居留地の經營に付ては既に政府は法律に依つて特別會計の制度を立てゝ居るか未だ一も着手して居るのを見ない之に付ては强ち政府の道方を咎める譯ではないかどうも我國の從來の外交の方針と云ふものか政府の方針と民間の事業家の考へとか共に歩むで居らぬために同一の歩調を取ると云ふことがないのである之がため兎角外國人に機先を制せられて其後に立つと云ふことは殊に痛嘆に堪へぬ次第である、外國では專管居留地を取ると云へば其居留地の地面は實際に於て多くは既に其外國の人民の所有に歸せしめて居るやうである故に其居留地を思ふやうに使はすとも出來る譯である膠州灣の如きダールニーの如きは政府自ら之を所有して居るのである、然るに我國のは如何にと

云ふに其專管居留地を取つても其所有權は他人の物即ち外國人のものだと云ふ姿を爲して居るので既に專管居留地が吾々の物となつても其内の所有權は如何と云ふたならば大抵外國人の物であると云ふやうな譏を免れぬ形がある、之は强ち政府の惡いのでもあるまいが要するに清國に於ける我大なる貿易業者と我政府との關係――結付けが能く居いて居らぬからであらうと思ふ、例へて云へば英吉利、獨逸の如き國では先づ之を取ると云ふ場合に其事に付て誰にも話しはせぬが極く肝要なる其地にある實業家例へば英吉利ならジャーデン、パフタフヒールドと云ふ如きものに英吉利の公使が談判をする機密の幾分を知らする途かあるやうに思はれる之れは外交上の秘密に屬することが往々あるから中々容易に人に洩すとは出來ぬと思ふが其關係と云ふものが奇用に運んで居るやうに思ふ、故に自然夫等のとに付て他國人に舌を出して笑はれることのないように運んで居るのである、日本では隨分理屈を餘計云ひ又官吏も最も公平と云ふことを主張するやうなとかあるために自然是等のことに付てもつい、理に走つて仕舞ふと云ふ次第であるはせぬかと想像する、右の如き次第であるために我國に於て得て居る所の專管居留地に付て金錢を投して其地盤を盛り上げるとか石垣を築くとかして手入れをするかと云へば即ち第一番に利益するものは誰であるかと云へば其

地圖の直打が上るため此地圖の所有者が利益するので即ち外國人が利益するのである漢口の專管居留地に付て云へば先づ居留地を宜くしやうと云へば先づ以て石垣を築くとか地面を積上げるとか云ふやうなことをするのであるが夫は即ち地面の所有者を第一番に利益させると云ふ次第になるから一寸手を付けようと云ふても考へなければならぬ次第である

十三　償金拂込問題

償金のことに付て私は委しいことは知らないが段々各地を廻つて居る内に清國政府は即ち第一回の拂込を各國に爲さんと云ふことの通知を爲したと云ふことを聞いた而して其の金をどう云ふやうにして作るかと云ふことに付いて疑惑を抱いて居つた所が支那政府は之に付いて各省に御用金を仰付けたやうである中央政府に於て夫々見込を付けて何れの省は幾何此省は幾何と云ふやうに相當金額を割當て、さうして其省の内で幾何と云ふ標準を立てゝ總督又は巡撫に中央より命令を下したらしい夫が爲めに小さな都の如き例へは漢口の如き蘇州の如き所では隨分狠狽して居る御用金であるが故にどうにかして納めなければならぬ夫には各省に於ては各知縣等を集めて相談して夫々負擔の割振を極めると云ふのであるが未だ其事の運びには十分至つて居らぬやうである我新聞にもある如く江蘇省には五百萬圓或は湖南省には三百萬圓と云ふやうに夫々割當てゝ居るやうであるから之は遠からず中央政府に納めるやうにならうと思ふが乍併此納めると云ふことが一回で濟めば宜いが年々之をやることになつたらば或は騷亂等が必ずしもないと云ふことは云へぬ之は未然のことであるから想像に過ぎないが詰り元々一定の標準なき御用金であるから自然公平と云ふものを失ふと云ふ樣なことは免れぬと思ふ、支那では何時も斯ふ云ふときに苦情が起つて一揆とか云ふやうなものも起るやうに聞いて居るから之も今度は初回のことであり皇帝が既に蒙塵されて田舍に迄往つて居らるゝと云ふ場合であるから自分の考では第一回は滯りなく拂はれやうと思ふが後はどうであるか困ることであらうと思ふ、何れ長髮賊の騷亂の結果鹽金稅が出來たやうに又た何か案出するか知らぬが支那の現在の有樣としては餘程始末が六ケしいと思ふ尤も元金に就ては既に輸入稅も上げられて居るから夫々途は付くであらうが兎に角數億圓の利子は年に二千萬圓近くになるので別に之が方法の案出せられぬ以上は矢張御用金を免るゝ譯に往くまい若し之を度々やると云ふことになつたら或は騷亂抔を起すことがないとも限られぬと思ふ

十四　日清銀行設立問題

日清銀行問題は數年前よりも我國の問題となつて居ることで屢々唱へられて屢々失敗して居るが聞く所に依れば清國に駐劄されたる公使等の如きは頻りに此問題を主張されるやうで且其趣意は恰も其銀行をして興業銀行の如き意味合に依つて我國の起業を清國に盛ならしめやうと云ふ目的で立てる論もあることであるが要するに之は多く利益を得ることは出來ないと思ふ、何故なれば日清銀行とした所で之は矢張新に立てることにしたならば詰り其銀行を十分活用せしめて働きあらしむるには自然世界銀行でなければ出來ないことである或は倫敦佛蘭國等の手形と支那に於ける手形と交換をするとか云ふやうな夫々途を取つて片爲替と云ふやうな困難に陷ることのないことをしなければならぬ之は新に出來る銀行をして三年四年の間に完全なる活動を爲さしむることは到底出來ないことである又日清銀行の目的は日清兩國人をして其株を所有せしむるものなるも支那人が之に應ずると云ふことは疑はしきことであらうと思ふ而して從來我國に於て設立せられたる勸業銀行、農工銀行の如き其名は甚だ美であるけれど其實際に至ては多くは農工業の改良を主とするにあらずして高利貸の資本を供給し若しくは政黨者の利便を計るに外ならざることである興業銀行の如きも遲からず設立せらるることであるが是れ又株屋の資本主たるに過ぎないことゝ思ふ之を要するに銀行業の如きものゝ利益配當を政府が保證するは甚だ策の得たものでない日清銀行の如きも或る程度まで政府に於て利益を保證しなければ到底其の設立を見ることが困難であるに相違ない若し清國に論者の云ふ如き銀行が必要であるとするならば其等の希望を滿たさしむる爲めに我國に於て既に外國のことに經驗のある銀行をしてやらせれば可なりで特更に之を立てゝ政府が保護して往つても其保護丈の割合に利益を得ることは出來ないと思ふ、此ことに付ては種々の議論もあるが大抵我輩は其目的の働きを十分に達せしめて利益を擧げると云ふことは難いと信ずるのである平たく云へば果して其丈のことを正金銀行をして取扱はしめ日本銀行をして正金銀行に一層其融通の道を與ふれば夫れで浮山であると思はる

十五　醜業婦と貿易の關係

次に注目すべきことは醜業婦のことである醜業婦のことに付て私共は外務省に居る時分にも心配したことで當時の政府の方針に依り調べたこともあるが條約改正の前であるから少しでも非難されることは避ける方針であつた然るに最早今日あちらに往つて見ると醜業婦は誘拐されて往くものは別として自分の自由意思に依つて往く所の醜業婦はひどく制限する必要はないと思ふ、日本の貿易は

國旗に從ふと云ふ方針を云ふ人もあるが之は嘘である日本の貿易は醜業婦の下に從ふと云ふは實際ではないかと思ふ、先づ以て醜業婦が往つて而して後に詰らぬ雜貨が出て往き下等なる日本人が續いて往く夫れから貿易の端緒が出來、領事館が出來、良い商人が往くと云ふ順序が今日亞細亞の貿易の有樣である今日我國の醜業婦は多く關西、九州地方から往つて居るやうであるが聞く所に依れば今より殆ど二十年前にも隨分內地に迄醜業婦が這入り込んだと云ふことである、一例を擧ぐれば楊子江の鎭江の如き數十名の醜業婦が居つたと云ふことである其が今日では一人も居らぬ、其處でどう云ふ譯かと聞いて見ると即ち支那の遊女屋が種々の反對運動をやつて領事館に訴へる事抔をして遂に皆殺しき命令に依つて之を引拂はしたのである、而して其の貿易如何と云ふて見たならば鎭江は今日互市場であるが其貿易は我國に依つて營まれて居るものはないのである、日本人が時々あちらに往くことを聞いて居るが未だ貿易業者が居ると云ふこと迄には至らぬのである若しも醜業婦が數十年前居つた位で之を抑壓しなかつたならば今の鎭江の貿易は必ず日本が一大優者となつて居つたと思はれるのである、然るに今日では其地を見るに僅に英米等の商人が居るのみである、畢竟之は殘念ながら醜業婦を抑壓した結果と斷言するを憚らぬのである、私が十數年前印度洋を經て歐洲に往つた時分にもシンガポール、コロンボ邊りに既に此醜業婦が居つたと云ふことで今では亞非利加、濠洲、其他南洋諸嶋の奥に迄這入り込んで居ると云ふことを聞いて居る元來女の性質は柔和で敵味方を論せず女とあれば自然穏かに話しが出來易いものである、從つて其女が需要する日本の品物が第一に這入つて來て、其を習つて段々人が其品物を買ふやうになり夫から下等なる日本商人が這入ると云ふ工合になつて實際に其港を開くと云ふ順序になるのである、之は決して政府が奬勵すべきことではないので又可成さう云ふことのないのを希望するが――なれども餘り抑壓することではないと思ふ、實は醜業婦は何處の國からも出て來て居るので、上海、天津、香港の如きも獨逸の醜業婦、伊太利の醜業婦、英吉利の醜業婦も居るのである決して日本獨り恥づるには及ばない、人の自由を束縛して人を誘拐して外國に出すことは良くないが自由意思に依つて往くものはうんなに抑制することは要らぬと思ふのである

十六　清國稅關長採用問題

清國の稅關は世人の善く知れるが如く、數十年來英人サー、ロバート、ハート氏が總稅務司と爲りて之を主宰し各港の稅關長は盡く外國人を用ひ、其の全國數十の貿易港に要する稅關吏も亦多く外國人を採用して居るのである而して「ハート」氏は

其の稅關吏を採用するには敢て各國との約束に依る譯ではないが實際各國の要
易額の多寡に準據して各國より之れを公平に採用して居るやうである並つて伊
太利の如きも、墺太利の如きも、乃至は西班牙の如きすらも皆一二名の稅關長を出
して居るである然るに獨り我日本にあつては貿易の關係最も密切なるものある
に拘はらず、僅に稅關の書記として兩三年前より我商業學校の卒業生等三四名を
採用したのを見るのみで一人の稅關長をも出して居らないのは實に遺憾千萬に
思ふ、故に我政府は宜しく速に清國政府若くはロバートハート氏に交渉して我日
本人中より一二名の稅關長を採用せしむるの手段を採ることが最も緊要のとと
信ずる獨り貿易上の關係に於て少なからざる便利あるのみならず、一人にても清
國に於て地位を得る者あらば、我國情を疏通する上に於ても又非常の便利あるは
疑ひないとである我豈の記憶する所によれば、確とは斷言することは出來ないが數
年前締結せられたる清英條約には總稅務司は英國が清國との貿易上に於て他國
に比し最優の貿易國たる間、英人を以て之に補すると云ふの約束があつたと覺へ
て居る、若し果してさうであるならば是れ即ち清國が各國より稅關長を採用する
標準となつて居るので此のことは當局者の一考を煩はさなければならぬとと信
ずる元來此の稅關長採用要求の事は獨り清國のみに止まらず、彼の韓國の如きも、

如きも私は未だ其地を踏んだ譯ではないが、我邦の之に對する利害の關係と云ふ
はものの實に大なるものであつて貿易も甚盛なるとであるが故に、敢て强請するま
でもなく、速に交渉して一二の稅關長位は之を我邦人より採用せしむることが矢
張、清國に對すると同樣必要なるとで又充分其理由あるとと思はれるのである

十七　清國人待遇問題

次に注目すべき事は支那人待遇のことである之は隨分吾々が見てもひどいと思
ふこともある、盛京省に往くと其處には支那人と露西亞人より居ない故に露西亞
人は支那人を慘酷に取扱ふやうに思ふ、されども爲と其狀況を考へれば必ずしも露
西亞人の惡い譯とも思へぬ元來下等の支那人は飽くとを知らない人間で教育は
なく言葉は通ぜずするから遂に叩いたり打つたりしても用を爲さしむると云ふ
ことになるのである、元より露西亞人は支那人を使ふに鞭を揮はぬやうなことは
しない石の次第であるから此ことに付き露西亞人のみを咎むることは出來ぬ支
那人自ちも亦責任を分たなければならぬと思ふ、南方の方に往くと支那人は一躰
に智識も進んで居る從つて外國人も盛京省は勿論直隸省に於けるが如くには之
を酷く扱はぬのである而して又其中にも直隸省にある支那人は更に之を盛京省
のものに比すれば其智識が又遙ふのである、から直隸省に於ける待遇は盛京省よ

も穏かであるが兎に角さういふ譯で北の方では今でも矢張鎖て外國人が往來を歩くには鞭を持ちステッキを持つといふ譯で言葉が通せず他く事を知らないものと話しをするには自然手か出るといふことは免れぬのである、之は宜いことではないから成るべく止めた方が宜いか事實に於て今日の所餘儀ないことである、其故各國の人が待遇を惡くするからといふて批難するは已れに頗みて疚しき次第である

十八　結論

以上數項に渉り清國に於て私の漫遊中氣の付いたことに關し其大略を御話しが尚此餘に御話をすれば實に限りのないことであるから今回の話は最早此位に止めて終に臨み今日の東洋問題に關し一言を述べ之にて此視察談の結尾と致さうと考へる、日清戰爭以後彼の遼東半嶋の還附を口實とし露西亞、獨逸等から清國に對し種々の注文を爲し夫よりして清國開放論、清國楊子江開放論、清國分割論、清國保全論と云ふやうな問題が我國は勿論世界の政治家の一大問題となつて居るのである、此事に付て日本の經驗ある先輩政治家には夫々穏かなる成案もあるとであらうと思ふから我輩の如き未れ多く經驗を得ない、短日の旅行者が餘り喙を容るゝことではないが自分が清國を視察する以前より考へ且現に清國を通り又

けて歸つて來て益々自分の信ずる所を確むるに至つたのは清國に對して日本が之を保全しやうと云ふことは惡いことではないと思ふが併し乍ら之が爲に各國即ち或は露西亞と同盟をするとか或は英吉利と同盟して露西亞に當ると云ふやうな議論をせらるゝことがあるけれども之は我輩の甚だ感服しない所である、御承知の通り英吉利と清國との貿易關係は之を他の國の貿易の關係と比較したならば最多もいのである英吉利の進歩黨の代議士中には支那商業上の利害と云ふ者は印度よりも遙に重い抔と云ふやうなことを英吉利の議院で演說した人もあるやに聞いたんである、けれども大躰支那の貿易にても北清貿易即ち北の方の問題に付ては英吉利が今日に於ても全躰に於て尚大なる貿易をして居るに拘らず比較的少ないものである、其故に此問題のために英吉利が露西亞と戰ふと云ふやうなことは想像し得べからざることである、若し一度東洋に於て何れかの國が戰ふことになつたら之は即ち亞細亞の戰でなく世界の戰である即ち英吉利が露西亞と戰ふと云へば即ち殆ど世界の貿易を捨てると云ふことになるのである、既に其貿易迄も捨てゝ尚英吉利が北支那問題に付てやり得るかどうかと云ふことは頗る疑しいのである、寧ろ信じ得られないのである、況や今トランスバール問題と云ふものが未だ容易に解決し得られざるものであるから此位の問題に付ては英吉

利も餘程頗みなければならぬことゝ思ふ、元來既に申す如く亞細亞の戰は世界の戰であるが故に英、露と云ふものが双方の旗幟となるにしても之は決して此兩國丈の戰でないので又實際に於て容易にあり得べからざることゝ信ずるのである、若しも双方が戰つてもやらぬならぬと云ふときには双方が話し合つて取つて仕舞ふのである、夫程便利のことはないのであるけれども之も實際に於て中々六ケ敷いと思ふ、支那の國は大國で不統一の國である、將來改革をしても到底容易に完全なることを成効せしむることは出來ないので、從つて清國は先つ今日のやうな形でぐず〳〵往くより外に途はないと思ふ、而して元來支那國の處分問題としては分け取りと云ふことは最早今日の大勢に於て容易に出來ないことゝ思ふので即ち各國は既に支那國に多數の資本を投ずる方針を持つて來て居る、北より南より東より西より總て鐵道を架けると云ふやうな工合になつて來て其多數は夫々着手も濟んで居ることであるから此際之を互に分ち合ふと云ふことは出來ないのである、露西亞の如きもペートル帝以來既に國是とする所があり而して己の領土を擴充させると云ふことは或は不易の方針かは知らぬが併し乍ら戰をしても斷行すると云ふことは今迄の歴史になないことで土耳古に對しては兩度迄戰をしたのである歟、併し是迄もひどく好んでしたと云ふ程のことでもないやうに思ふ從つて

て盛京省一帶の方面に付ては將來如何になるかは知らぬが支那政府に於て露西亞の要求に應ずると云ふやうなことであれば其は其結果が何處迄及ぶかは知らぬが應じないと云ふて露西亞は支那を征伐することはしないと思ふ、夫は今日、各國の許さゞる所であるのである、唯今は支那國のためには清國に於て可成事端を開かぬやうにして外國に口實を與へぬやうにすることに注意しなければならぬと思ふ、日本の如きは朝鮮問題に付ては既に日露協商のあることであるが滿洲方面のことに付ても或は清國の露西亞に對する處置振の結果に依つては或は何とか又露西亞と話をする必要も起るかは知らぬが日本は私の考へでは決して東洋の覇者となると云ふやうな觀念は持つ必要がないと思ふので今日の東洋問題に關し種々の議論もあるが我國の今日の立場としては各國も親むべし支那も親むべし英露とも親むべしと云ふより外はないと思ふ、故に日本は殊更に我國の兵備を進め陸海軍を擴張すると云ふことは此點から强ひて別に必要を認めない若しも假りに是等の問題に付て我國が或國と爭端を開かんならんと云ふ場合に於て他に其敵國と親しからざる國か我國に左袒して共に戰をして呉れるかと云ふに、其は決してないことゝ思ふ然らば歐洲の大國と假りに戰つたならば東洋に於ては勿論戰で勝つであらうが勝つて東洋に於ける利益を得るかと云へば只今日の

困難なる經濟社會を一層苦めて國力を衰頽せしむると云ふより外はない、現在の海軍の力陸軍の力と云ふものに付ては政府は其々見る所があつて必要の程度迄は發達をせしむると云ふて其々議會の協贊を經てやつて居ることであるから我輩の此素人として此現在の組織をも毀して兵力を減ずると云ふやうなことに付て迄言ふ丈の智識もなし言ふことも好まぬが併し最早我國の海陸軍と云ふものは充分と云ふて宜いので更に之に向つて組織を變へよとは云はぬが若も其繼續事業の如きもので尙延はすことの出來るものがあれは今日の經濟社會に於ては即ち陸軍の事業の如き可成延ばすことが出來れば延して貰いたいと思ふのである、うしたからと云ふて決して東洋の事局に關係はないと考へる、而して其餘力を以て今後日本の國勢から考へて最も力を入れることは即ち商工業の發達であるどうか政府は勿論民間の實業家に於ても夫々深く此支那に對する貿易及起業のことには注目せらるゝことを切に望むのである尙此東洋問題に付ては申したいこともあるが事國際上に關することもあるから先づ茲に止めて置きます

清國視察談　終

明治卅五年二月十五日印刷
明治卅五年二月廿日發行　（正價金拾錢）

東京市本郷區本郷益町六十二番地
編輯兼發行者　小島金平

東京市日本橋區北嶋町一丁目卅六番地
發行所　中外商業新報　株式會社　商況社

東京市京橋區新肴町十一番地
印刷者　武石八之丞

東京市日本橋區北嶋町一丁目卅六番地
印刷所　中外商業新報　株式會社　商況社

92
104

026548−000−4

92−104

清国視察談

藤田　四郎／述

M35

ADD−0219